

全校のみなさん、おはようございます。

水曜日にはスポーツフェスティバルとファイヤーストームが行われました。秋晴れの空の下、全力で楽しむことができましたでしょうか。

さて、一年生は来週には東本願寺研修があります。学びの多い研修とするために、しっかりと準備をして行きたいものですね。

ある仏教の先生が、「『神社』と『お寺』の違いは何か」と、学生に尋ねたことがあります。学生は「神社に祀られているのは神様で、お寺は仏さまです。」と答えました。さらに先生は「では、神様と仏さまの違いは何か。」と再び学生に尋ねました。学生は、それにうまく答えることができませんでした。

先生は続けて、「神社とお寺では、そこに行く目的が違います。」と言い、「神様にこちらからお願いをしに行くのが神社で、仏さまから願いを聞きに行くのがお寺だ。」とおっしゃいました。

確かに、神社に行くというと、手を合わせ一生懸命にお願いをする、というイメージがあります。また、たとえば神社にはたくさん「お守り」が売っていますが、交通安全であったり学業成就であったり、それらは人間の側の「こうなってほしい」という願いの表れです。

その先生は、「お寺という場所は、神社のようにお願いをしに行く場所ではなく、願いを聞きに行く場所なのだ」とおっしゃいます。「人間が考えつく願いと言っても、お金持ちになりたいとか、健康で長生きしたいとか、何でもできる力を手に入れたいとか、それぐらいのものでしよう。しかし、それで本当に幸せになれるから、仏さまから、自分では絶対に気づけない本当の願いというものを聞かなければならないのだ。」とおっしゃいました。そして、「阿弥陀という仏さまは、私達人間が、本当に大切ではないものを大切だと思って握りしめて、そのために苦しんでいるから、『頼むから本当に大切なことに気づいてくれ』と、仏さまのほうに苦勞し、私達に頭を下げてまで願ってくださっている。」とお話ししてくださいました。そのことを、親鸞聖人は「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなり」と受け取られました。

日常生活の中で、同じように扱っている神様と仏さまかもしれませんが、その違いを考えると、仏教というものを学んでみるのもよいことかもしれません。